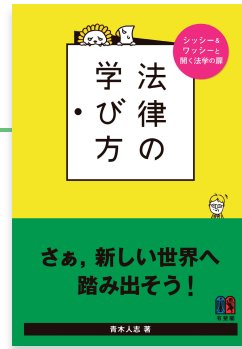


# 法律の学び方

## ——シッシー&ワッシーと開く法学の扉

青木人志

2020年11月発売 / 150頁 / 本体 800円 + 税  
四六判 / 並製



編集  
担当者  
から

シッシー&ワッシー、そしてアオキ先生のことは、ご存じですか？

シッシーとワッシーは、有斐閣の社章（有斐閣の本や雑誌の表紙などにあるあのマーク→）から飛び出してきた獅子と鷲です。その2人が、この本の中でアオキ先生から「法律の学び方」を教わります。実は、3人が一緒になるのはこれが2回目。今回は『判例の読み方』（2017年刊行）がテーマでした。



今回は「法律の学び方」。法律を学んで……条文を覚えるんでしょ？ 大変そう。いろんな学説があって、何が正解がよくわからない。法律家になる気はないからそんなにモチベーションもないし、学んだことは将来役に立つの？ ——大丈夫。心配に思うのは、あなただけではありません。3人が、法律を学ぶ難しさや悩みに、まっすぐ向き合い、寄り添いながら、未知の世界への扉に導きます。

「なーんだ、そういうことか」、「法律ってあんがい奥が深いってことがわかった気がする」。この本を通じて、3人と一緒に扉の先の光をみてみませんか。（ミヤケ・ナカノ）

Point!



やさしく楽しい会話で読みやすい！



### I 避けて通れない「難しさ」

さて、シッシー、ワッシー。じつはね、そろそろシューカツかなって思っているんだ。

食べたくない、シュークリームの皮にパン粉つけて揚げるの？ 衣だけじゃないか。身を入れてくれよ、お肉だよ、お肉。

相変わらず食べ物のことしか考えないんだ。「就活」に決まってるじゃないか。先生は転職したいんだよ。

いやそうじゃなくて「終活」なんだ。「法学教師としての終活」を考えていた。あと数年で定年退職だからね。残された教師生活の中で自分は何を学生に伝えたいか、真剣に考えちゃう。30年法学教師をやってきたけれど、いまでも「法学って楽しいなあ」って思う。そんな教師が初学者に教えるんだから、迷いばかりさ。そのことを正面に話そうかなって思っていた。

私はダメな法学者です、ロクな先生ではありませんって、いきなりの告白？

そこまでは言っていないよ。

いや、そうかもしれない。でも、そうでもないかもしれない。三ヶ月先生という民事訴訟法の大先生がいらしてね。東大で教えたあと法務大臣もなされた。その三ヶ月先生ですら「法学入門担当のこわざ」についてお書きになっている。「たとい教師生活何十年という古株であっても、法学入門の講壇に立つと足がすくむのである」とまでお書きになっている（三ヶ月章『法学入門』（弘文堂、1982年）2頁）。いわんや私をや。

聞き直したね。三ヶ月先生はどうして、こわくて足がすくんじゃないの？

ひとつは、新入生が最初に聴く法学入門の講義によって法についてのイメージを決定的に形づくってしまうかもしれないという責任の重大性。もうひとつは、自分の法学研究者としての過去のすべてがそこで秤にかけられていると感じざるをえないからだ。つておっしゃっている。

法学者としての「最後の審判」を受けるみたいなものでしょうか。

うん。法学入門の講義は、研究者としての全存在を賭けるようなものだっていうことだろうね。ボクは研究者としては、三ヶ月先生の足元にも及ばないけれど、かりに教師としての全存在も天秤にかけられるとすると、自分がずっと

12 第2部 講義

13 I 避けて通れない「難しさ」

※詳細はこちらから。



※『判例の読み方』もぜひ一緒に。

